

# ○參照第三

明治廿七年三月廿二日北海道地震概報告

(參照第四北海道地震概記錄參看)

委員 大森 房 吉

明治廿七年三月廿二日地震ハ震域頗ル廣ク其ノ微動ハ中心點ヨリ殆ド二百五十里ノ距離ニアル近江國彦根邊ニ迄テモ波及セリ此ノ如ク震動ノ遠距離ニ達セルハ近年絶エテ見サル所ニシテ震域ノ廣大ナルハ遙ニ明治廿四年十月濃尾地震ノ上ニアリ陸地總面積ハ一萬二千方里餘ニシテ就中強震ヲ感シタル面積ハ三千四百六十方里ナリ、震域圖ハ第一圖ニ示ス

因ニ曰フ他ノ近年北海道強震ノ場合ニテハ震波ハ西ノ方越後ノ東部ヨリ上總安房(若クハ相模東部)迄ニ限リテ今回ノ如ク信濃以西ニ及ヒタルコトハアラサリシ

大地震ハ廿二日午後七時廿分頃ニ發シタルカ同日中之ニ先チテ四回ノ微弱震アリ根室測候所ニテノ發震時測定ハ左ノ如シ

第一回	午前三時四十九分十四秒	微震
第二回	午後二時廿二分五十五秒	弱震
第三回	午後二時三十三分廿五秒	微震
第四回	午後二時三十七分十秒	微震

右四回ノ地震中ニテ第二回最強カリシト云フ

昨廿六年六月四日及ヒ十三日北海道ニ於テ強震アリシカ之ニ先チテ六月一日ヨリ三日ニ及ヒテ北海道東部或ハ千島ニテ五回ノ微弱震アリタリ又四日ヨリ十三日ニ及ヒテ十日、十二日ノ二日ヲ除キテ毎日一回或ハ數回ノ微弱震アリタリ

前記ノ微弱震ハ強震ノ前兆タリシナルヘシ

震動ノ繼續セシ時間ハ東京ニテ大學ニ据エ附ケタル地震計ノ記錄ニ由レハ大凡ソ七分ニシテ極メテ緩慢ナル震動ヲ爲シ初發ヨリ二分時間ヲ經テ始メテ著大ノ運動ヲ來タセリ首ナル震動ニ先チテ微動ノ長時間ニ亘リタルコト此ノ如キハ甚タ稀ニ見ル所ニシテ全ク震原ヲ距ルコト遠キニ由レルナリ「ミルン」氏ノ觀測ニ由レハ東京ニテ地震後尙ホ一時間程ハ水平振子ハ絶エス動搖シツ、アリシト云フ非常ノ大地震アリタル後ハ地殼ハ長時間水波狀ノ緩動ヲナスモノナルヲ知ルヘキナリ

近江國彦根測候所地震計ノ記錄ニ由レハ震動ハ六分間繼續セリ左ニ驗測ノ結果一二ヲ掲ク

東京神田一ツ橋外	最大水平動	四、耗(振動期〇、九秒)
彦根	最大水平動	一、三耗(振動期一、六秒)

根室測候所ノ報告ニ由レハ當日午後七時二十分四十五秒ヨリ發震シ同二十五分十一秒ニ至リ最強ニ達シ同三十分三十秒迄

震動非常ニ劇ク次ハ七時三十二分二十秒ヨリ同三十四分四十秒迄、其次ハ七時三十四分五十秒ヨリ同三十五分ニ及フ此等三回ノ地震ハ最激烈ナリシト云フ

釧路崎燈臺員ノ説ニ由レハ地震ハ午後七時三分ヨリ始マリ同三十五分迄ハ絶エス震動シテ爲メニ燈臺ニ點火スルコトヲ得ス其内三回ノ強震アリ而シテ最初ノ震動最甚カリシト云フ（此ノ燈臺ノ時刻ハ七十八分後レアリシカ如シ）

釧路測候所ノ報告ニ由レハ震動ハ遠雷ノ如キ聲響ト共ニ七時二十三分十五秒ニ起リ二十秒ヲ經テ南東、北西ノ強震トナリ二分間繼續セリト云フ

十勝測候所ノ報告ニ由レハ七時廿七分十一秒ヨリ震動始マリ最初ハ極メテ微ナリシカ同廿八分ニハ最強ク廿九分廿六秒ニ至リテ靜止セリト云フ

上記スル所ヲ以テ考フルニ北海道東岸ニ於テハ大震ハ十分間餘繼續シ而シテ其後少時間ハ地ノ震動殆ト止マサリシカ如シ而シテ何レノ場合ニテモ劇烈ナル上下動ヲ感シタルニテハ無ク且ツ震動ハ全ク急卒ニ非スシテ三十秒乃至一分時間微動アリタル後ニ首動ヲ來タセルヲ以テ見レハ震原ハ北海道ノ東岸ヲ去ルコト數十里ノ遠キニアリタルハ容易ニ推知スヘシ  
今回ノ地震ノ震原ヲ定ムルニ關シテ調査スヘキコト四アリ、

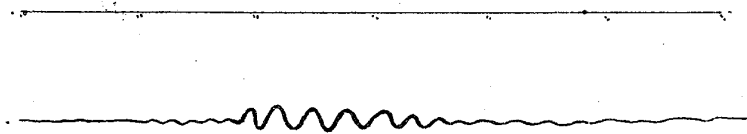
第一、震度ノ分布并ニ等震線、第二、震動ノ方向、第三、海嘯ノ現象、第四、餘震ノ度數并ニ地鳴ノコト、之ナリ

第一、（第一圖參照）第一等震線（激震地境界線）ハ粗ホ北海道ノ東海岸線ト合シ十勝ヨリ根室ニ至ル一帯ノ沿岸及ヒ國後島南端ニ於テ地震ノ強度ハ格別ノ變化ナキヲ以テ見レハ震原ハ此等ノ地方ヨリ大凡ツ同距離ニアリシナルヘク即チ孤線ノ中心點ハ東經百四十六度半北緯四十一度半ノ海中ニ當ル

北海道東岸ニテ震動ノ最激烈ナリシハ釧路國厚岸ニシテ十戸ノ全潰家屋アリ、根室、釧路ニテハ震動少ク輕クシテ家屋ノ全潰セルモノナシ根室ニ於ケル損害ハ殆ト全ク煉化煙突ノ崩壞ニ起因シ其地動ノ強サハ本年六月廿日地震ノ際東京ニ於ケルト同一ニシテ即チ地動ノ最大加速度一秒時ニ付キ一千耗位ナリトス濃尾地震ト比較スレハ根室ニテノ震度ハ濱松、京都、津其他ニテノ震度ト同様ナリシ

濱松ハ濃尾地震ノ最激震地タル根尾谷中部ヲ距ルコト約三十五里ニシテ京都及ヒ津ハ同ク二十五里ナリ今回ノ北海道地震ハ濃尾地震ヨリ遙ニ廣大ナレハ其震央ニ於テハ震動非常ニ劇烈ナリシニハ相違ナク蓋シ敢テ濃尾地方ニ劣ラサリシナルヘシ故ニ濱松等トノ比較ニテ推スレハ今回地震ノ震央ハ根室ヲ去ルコト少クモ二十五里或ハ三十里以上ノ遠キニ在リシモノ

東京  
震動  
模  
樣  
圖  
解



0 1 2 3 4 5 秒初發ヨリ  
ノ時間

S. Pyrkows. Wied. Wiss.

ト思ハル

震動ノ強弱ハ土質ニ由リテ著ルシキ差異ヲ呈スルコトアリ例  
之ハ厚岸ニテ家屋ノ壊倒セルハ皆ナ灣月町、若竹町、松葉町  
ノ如キ低濕ノ地、或ハ近年(明治十年頃)埋メ立テタル地ニ限  
リテ丘麓ニアル國泰寺(新シキ平家ナリ)ノ如キハ毫モ損害ヲ  
受ケタルコトナク(尤モ器具ノ轉倒セルハ多少アリタレトモ)  
又丘腹ノ病院(明治七年築造ノ平家)ニテハ單ニ三十本程ノ硝  
子瓶ノ轉倒セシノミニ止リテ他ニ壁紙ノ裂ケタルカ如キコト  
一切ナカリシ

根室ハ地質堅硬ニシテ火山岩ヨリ成ルヲ以テ(市中處々岩石  
ノ露出アリ)震動ヲ感スルコト頗ル弱カリシ、若シ低濕ノ地  
ナリシナランニハ根室ニ於ケル損害ハ決シテ厚岸ニ於ケルモ  
ノニ劣ラサリシナルヘシ、余ハ根室ノ方寧ロ厚岸ヨリモ震原  
ニ近カリシト考フ

釧路市街ハ釧路川口南岸ニ突出シテ高臺狀ヲ爲セル小半島ノ  
北面ニアリテ一部分ハ高臺ノ上ニ建設シ其首ナル部分ハ臺下  
ノ砂濱地ニアリ(第二圖ヲ見ヨ)此ノ場合ニハ厚岸ト相反シ濱  
邊ノ低地(眞砂町)ニ於テハ震動輕クシテ屋根石ノ墜落、障子  
ノ外レ、壁紙ノ龜裂等ノ事モ無ク僅カニ酒罎ノ轉倒等ニ止マ  
リシカ高臺ニテ其北側ニ近ク建築セル郡役所ノ如キハ震害ヲ

受クルコト頗ル甚シク机、書箱ノ轉倒、壁紙ノ龜裂等多カリ  
シ其他米町ノ如キモ震動頗ル強ク家屋ノ二三寸傾斜セルモア  
リ戸障子ハ大抵外レタリシ

此ク釧路半島ノ小區域内ニテ震動ニ強弱ノ差甚シカリシ故ヲ  
考フルニ震原ハ此地ヨリ南東ニ當レルヲ以テ震波ノ高臺ヲ打  
ツニ於テハ所謂「斷崖震動」ノ現象ヲ呈シテ其北邊及ヒ北西邊  
ニテ著ルシク震害ヲ生シタルニ起因スルコトモ有ルヘキカ要  
ハ土地ノ硬軟ニアルカ如シ即チ濱邊ハ薄層ノ砂地ニシテ下部  
ハ全體ニ岩石ナリ現ニ灣中ニ暗礁アリ又愛北川ノ河底モ岩石  
ナルヲ以テ知り得ヘシ然ルニ高臺ハ大抵岩石ノ腐蝕シタル土  
質ニシテ郡役所ハ海水面ヨリ四十七八尺ノ高サニアリ恰モ硬  
岩石ノ上ニ脆弱土ヲ載セアルヲ以テ臺上ニテ震動甚キヲ致セ  
ルナランカ

二、震動ノ方向、大震ノ時根室測候所ノ地震計ハ不完全ニ  
シテ充分ナル地震記象ヲ與ヘス又北海道ハ人煙稀少ニシテ満  
足ナル材料ヲ得難キモ釧路、厚岸、根室ノ三ヶ所ニ於テハ多  
少明確ニ震動ノ方向ヲ推知シ得タリ即チ厚岸ニ於ケル震動ノ  
方向ハ南東、北西ニシテ釧路ニ於テハ東西ニ近ク根室ニ於テ  
ハ南北ニ近シ種々ノ觀察ノ結果ヲ取リテ判定スルニ釧路ニテ  
ノ震動方向ハ東々南、西々北根室ニテノ震動方向ハ南々東、

北々西ナリシカ如シ此等三ヶ所ニ於ケル震動方向ヲ延長スレハ東經百四十六度、北緯四十二度、三ノ近傍ニ集合ス(第二圖參照)

左ニ厚岸ニ於ケル震動ノ方向ニ關スル觀察二三ヲ記載スヘシ國泰寺境内ニテ三個ノ石燈籠ハ各南々東(其ノ頂部ハ北々西)、南々東、南東、ニ向テ倒ル(皆角柱ノモノナリ)五棟ノ家屋及ヒ納屋ハ各南東、南東、北西、南東、南東ニ向テ倒レタリ

小學校、學校ハ北東ニ面セル平家ナリ、屋頂二個ノ鬼板(鬼瓦ノ如キモノニシテ木造ナリ)殊ニ後面ノモノハ著ルシク南東ニ傾ケリ」校内北東及ヒ南西ニ並行スル棚ヨリハ器物墜落シタレトモ之ニ直角ノ方向ニ並行スル棚ヨリハ墜落セルコト稀ナリシ」南西ニ向ヘル壁ニ掛ケ下ケタル一個ノ振子時計ハ十度程南東ニ傾斜セラレテアリシ」南西ニ面セル壁ニ接シテ据エ置ケル一個ノ机ハ五寸程南東ニ移動シ且ツ机上ニ於ケル書棚ハ同ク一尺程机上ニ於テ南東ニ移動セリ此等二ツノ場合ニテハ壁ニ直角ノ方向ニハ移動ナカリシ」學校ノ運動場ニ於テ北東、南西ニ並行セル龜裂生セリ

厚岸町役場、北東、南西ニ並行セル壁ヨリハ器物ノ轉落

アリタレトモ之ニ直角ノ壁ヨリハ少カリシ」壁紙ノ裂ケタルハ南東、北西ニ並行セル壁ニ多カリシ」南東、北西ニ並行セル二枚ノ硝子戸ハ動搖ノ爲ニ自然ニ摺リ開キテ南西ノ方ハ一尺、北東ノ方ハ五寸動キタリ、此ト直角ノ方向ニアル硝子戸ハ許多アリシカ一モ摺リ開キタルモノナカリシ(他ハ略ス)

此ノ如ク厚岸ニ於ケル震動ノ方向ハ約南東、北西ニシテ殊ニ物體ノ傾斜、轉倒ハ多ク南東、即チ震原ノ方ニ向ベリ蓋シ傾斜轉倒ノ方向ハ地ノ最大動ノ方向ト同一ナルヘク、此ノ場合ニハ地ハ震原ニ向テ最大震動ヲ呈シタルナルヘシ、尙ホ庄内地震ノ報告ヲ參照スヘシ

三、海嘯ノ現象、充分強キ震動ニシテ海中(或ハ海岸)ニ發起スルトキハ海水ニ激動ヲ與ヘ即チ水震ヲ起スコトアルヘシ所謂津浪ニシテ時トシテハ沿海地ニ於テ非常ノ災害ヲ來タスコトアリ、而シテ發震時ト津浪ノ來ル時刻トノ差ハ震原ノ遠近ニ由リテ異ナレリ

今回ノ地震ニ際シテハ根室、釧路等ノ東沿岸ニテハ其當夜海水ノ變動アリタレトモ著カラスシテ幸ニ大津浪ニハアラサリシ即チ激震後二十分乃至三十分時ヲ經テ一旦海水ノ退却アリ再ヒ上リ來リ其ヨリ引續キ數回ノ干満ヲ爲セリ而シテ此小津浪

ノ往復振動期ハ二十分乃至三十分ニシテ當海岸ニテハ海水高低ノ差ハ四五尺ニ上リタル所多シ

釧路港ニテハ當夜八時頃實見セル所ニテハ海水ノ引退スルニ十餘間ニシテ如何ニ干潮ノ時ニ於テモ見得サル暗礁ヲ露出シ海水ノ上リ來タルトキハ滿潮ノトキヨリモ二三間多ク内ニ進ミ而シテ暗礁ノ全ク見エアルハ五分間程ナリシトソ、又同夜十一時ニ實見シタルトキニハ海水ノ動搖ハ頗ル減少ニ赴キツ、アリシト云フ

眞龍村渡船場(厚岸)ニテハ著キ潮ノ干滿五回アリ動搖ハ翌朝午前二時頃迄續キタリシト云フ

國後島ニテハ震度ハ根室邊ヨリ弱カリシカ其東岸「ルヤベツ」村ニテハ震後一時間以内ニ津浪アリテ海水ハ濱邊ノ人家ニモ達シ其ノ干滿ハ數度アリシカ初回ノモノ最大ニシテ海岸ニ堆積セシ流水ヲ岸上ニ打チ上ケタリシトソ又舟ノ流失セシ所モアリタリト云フ

國後島ノ西岸及ヒ南端泊ノ湊附近ニテハ格別海水ノ變動無カリシカ如シ

「ノシヤブ」燈臺沖ノ諸島ニテハ地震ノ當夜津浪ノ爲メ破壊セラレタル家アリ又小兒ノ此ノ爲メニ溺死セル者モアリシト云フ箱館、青森等ニ於テハ海嘯ノ現象アラサリシカ如シ

陸奥、陸中、及ヒ陸前ノ東海岸ニテハ震後約一時間ヲ經テ皆多少ノ津浪アリタルカ如シ左ニ宮古測候所ノ調査ニ關スル諸報告ヲ記載ス

陸中國東開伊郡宮古町 本年三月二十二日午後七時二十六分○秒弱震アリ性質緩慢ニシテ震動時間二分四十九秒ナリ尙續震三回アリ其最後ノモノハ同七時四十九分五十三秒其震動時間二十秒ニシテ孰レモ微震ナリキ同八時十五分頃不圖海水ヲ望觀セシニ俄然潮水減退シ大低潮ヨリ尙一二尺モ減水セシナラン平常見得ベカラサル岩石ヲ露出セリ而シテ暫時ニシテ増潮シ舊位ニ復セシ如クナレトモ夜間ノコトユエ十分觀測シ得サリシカ多分數回ノ増減アリシナラン乎

同上田老村 午後七時三十分波濤起リ水勢五尺以上ヲ増シ川口ニ溯リ干滿迅速ニシテ翌二十三日午前九時マテ數十回ニ及ヒテ止ム損害ナシ

同上磯鷄村 午後七時三十分海岸一帶波聲ヲナシ潮流激甚ニシテ干滿非常ニ急速ナリ翌日午後ニ至リテ止ム損害ナシ  
同上津輕石村 午後七時頃ニ於テ少シク潮ノ干滿ニ異狀ヲ呈セシモ特ニ著シキ變事ナクシテ止ミタリ

同上重茂村 磯鷄村ニ同シ

同上山田町 磯鷄村ニ同シ

同上織笠村 午後九時ニシテ潮水ノ干満七回其終回ニ於テ織笠川平常ヨリ凡ソ三尺ヲ増水セリ損害ナシ

同上舟越村 磯鷄村ニ同シ

陸中國南閉伊郡釜石町 午後七時地震ス方向ハ南北ニシテ震動間凡四分間海水ノ引キシコト凡十五尺餘

(備考) 海水ノ差引ハ平素大引ニテ四五尺外内申引ニテ三尺内外ナルモ同日ノ如キハ十四五尺ノ引洩ニシテ都合七八回ノ差引アリ而シテ此異狀ヲ呈シタルハ震動後四十分内外凡ソ一時間程經過セシ頃ヨリ始ム洩ノ七八回差引時間經過ハ凡ソ三時間程ナリ

同上 鵜住居村 二十二日午前十一時頃地震緩ク長ク凡三十秒時夫レヨリ夕方ニ至ル間時々小震五六回午後六時三十分頃大震一分間翌廿三日午前四時頃小震一回是ヲ最後ノ地震トス此ノ日晴天夜ニ至ルモ雲ナシ海水ノ満干異狀ヲ呈スルコト午後五時頃ヨリ始メ大震ノ後最モ甚シク其通常ニ異ナルコト満干共ニ五六間乃至十間夫ヨリ次第ニ減シ廿三日ノ午後ニ至リ全ク異狀ヲ止ム

同上 大槌町 午後八時地震同日午後九時頃ヨリ海水大ニ狂ヒ潮水ノ干満急ナリシモ陸地ニ浸水セスシテ歇ミタリ

陸前國氣仙郡赤崎村 午後八時二十分地震稍々強シ天氣ハ極メテ靜穩ナリシカ暫時ニシテ海嘯トナリ潮水差引三回目ハ平潮ヨリ凡ソ六尺ヲ増セリ然レトモ幸ニ干潮ノ時ニシテ堤塘道

路家屋ニ被害ナシ翌二十三日午前四時三十分迄潮ノ差引二十五回ニ及ベリ

同上 高田町 午後七時三十分地震強當町岩崎完治所有物置小屋一棟潰倒セリ(但シ粗造ナル小屋)

當町岡田善右衛門所有浮漁船一隻高田灣ニ繫キ置キタルニ海嘯ノ爲メ微塵ニ破壊セリ

同上 大船渡村 午後八時三十分地震同午後九時海嘯但シ同時ヨリ翌二十三日午前四時マテ潮水ノ大千満五尺以上度數十回其後小干満ノ急速ナル一日間幸ニ海嘯ノ時刻ハ干潮ナルヲ以テ大害ヲ免ル滿潮ノキナレハ一丈ナラン

地震アリタル後チ幾何時間ヲ經テ津浪ノ來リタルヤヲ知り且ツ海底ノ深サヲモ知ルトキハ震原ノ距離ヲ概算シ得ヘシ今回ノ地震ニ於テハ満足ナル計算ノ材料ヲ得サレトモ震原ハ北海道ノ東岸ヲ距ルコト三十里或ハ五十里ノ海中ニアルコトハ津浪ノ現象ヨリシテ推シ得ヘシ

四、餘震ノ度數并ニ地鳴ノコト 大地震アリタル後ハ數日若クハ數十日間其ノ震央或ハ附近ノ地ニ於テ時々地鳴ヲ聞クコトアレドモ今回ノ地震ニ於テハ根室其他ノ場所ニテ著キ地鳴ヲ聞カサリシハ震原ノ充分接近セサルニ由ルナルヘシ  
濃尾地震ト今回北海道地震トニ付キテ餘震ノ多寡ヲ比較セン

ニ地震後各第九時ヨリ第百〇八時ニ至ル迄テ一百時間中ノ餘震ノ總數ハ岐阜ニ於テハ七百八十回、根室ニ於テハ二百四十六回ニシテ即チ岐阜ニ於ケル餘震ハ根室ニ於ケル餘震ヨリハ三倍餘多カリシナリ、今餘震ノ數ハ一般ニ地震ノ大サト共ニ増加シ而シテ北海道地震ハ濃尾地震ヨリ數倍廣大ナル震域ヲ有スレハ其震原ニ於テノ餘震ノ數ハ少クトモ岐阜ニ於ケル濃尾餘震ヨリモ多カリシナルヘシ此等ノ事實ヨリシテ餘震數ノ震原ヨリノ距離ト共ニ減少スルコトヲ考フルニ北海道地震ノ震原ハ根室ヲ去ルコト二十五里ヨリ少ナカリシコトハナキ者ノ如シ

### 震原

以上記述セル所ヲ取捨シテ考フルニ震原ハ根室ヨリ南々東ニ當リテ約三十里ノ距離即チ東經百四十六度、北緯四十二度ノ點ニ遠カラサル所ヲ最中心トシ且ツ約海岸ニ並行セル一帯地ナルベシ

### 「トスカロラ」海床トノ關係

日本北部ノ地震ハ「トスカロラ」海床ニ關係アルヘシトハ一般ニ人ノ唱道スル所ナリ、有名ナル世界最深ノ海底「トスカロラ」ハ千島「ウルツプ」島ノ南東ニ當リテ東經百五十二度三十分、北緯四十四度五十五分ノ所ニアリテ四千六百五十五尋ノ

深サニ達ス而シテ「トスカロラ」海床ト稱スルハ千島ノ東邊ヨリ小笠原島ノ近傍ニ亘ル一大盤地ニシテ四千尋以上ノ深サニ及ブ今回大地震ノ震原ハ此ノ深海床ノ底地ニアルニアラスシテ海岸ヨリ三十里ヲ距テタル所即チ北海道地盤ノ此ノ深海床ニ低下シテ傾斜ノ最急ナル部分ニ在リ蓋シ傾斜ノ急ナル所ハ地殻ノ追壓ヲ受クル甚キヲ以テ變動ヲ起シ易カルヘク此大地震ノ源因ハ地ニリナルヘシ

平時根室半島ニテ感スル小地震ノ震原ハ其ノ多數ノ場合ニ於テ一層陸地ニ近キ海底ニ存スルカ如シ

天保十四年大地震ノ震原モ今回地震ノ震原ト相近ク且ツ或ハ少シク陸地ニ近カリシカ如シ、思フニ今後數十年ヲ經タル時ニ於テ再ヒ北海道ニ大地震有ルヤモ知ル可ラスト雖モ其震原ハ同ク附近ノ海中ニアリテ新ニ陸地内ニ於テ大變動ヲ起スカ如キコトハ殆ト無カルヘキニ似タリ

關谷博士ノ調査ニ依レハ古來日本大地震中ニテ最廣大ナリシモノハ天武天皇十三年十月廿日、明應七年八月十九日、寶永四年十月四日、及ヒ安政元年十一月四日ノ四地震ナリト云フ此等ノ地震ハ皆日本本州ノ東岸及ヒ南東岸ヲ激ク震動セルモノニシテ其震域ヨリ考フルニ粗ホ日本東南岸ニ並行シテ海中遠カラサル所ニ大斷層ヲ生シタルニ基因セルカ如シ、之ヲ要

スルニ日本四近ニ於ケル地震地ハ日本全東岸ニ並行シテ陸地ノ太平洋ノ深床ニ急ニ傾斜スル一帯地ニシテ海岸ヨリ數里或ハ二三十里ノ距離ニアルナルヘシ

以上記述シタルハ今回地震ノ震原ニ關スルコトノミニ限り尙ホ家屋及ヒ燈臺ノ損害、煉化烟突ノ破壊、餘震ノ調査、各地ニ於ケル震動ノ景況等ハ他日詳記スルコトアルヘシ

寫眞圖說明

一、厚岸小學校 屋根ノ鬼板ノ一個著ク後方ニ傾キタルヲ見ル、五重塔頂上ノ九輪ガ大震ノ爲メニ傾斜シ或ハ曲リ或ハ墜落スルト等シク鬼板ハ大家ノ上ニ接置セラレタル小質量ノモノナレハ前者ノ動量ノ爲メニ甚ク振搖ヲ受ケ特自ニ動キタルナラン、煉化造リノ建築ニテ屋根上ノ四隅ニ立テタル柱ニシテ地震ノ爲メニ屢々其ノ根ヨリ接斷セラル、コトアルモ同一理ナリ

二、厚岸裁判所内部壁紙ノ裂ケタル狀 北海道ニ於ケル建築ハ大抵塗り壁ヲ用キルコトナクシテ板ヲ二重ニ張り付ケテ壁トシ之ヲ洋紙ニテ覆フナリ、此ノ寫眞ハ裁判所公廷ノ内部ニシテ壁紙ノ破レ方ヲ示ス、蓋シ塗り壁ノ龜裂スルモ理ハ之ノ場合ニ同シカルヘク即チ此ノ如キ簡單ナル被害ヲ調査スルコト亦有益ナルヘシ

三、厚岸裁判所 玄關ノ構造ハ一般ニ不注意ニシテ單ニ家ニ接シテ立テ掛ケタルカ如キモノナレハ容易ニ震倒セラル、凡テ出入口ノ構造ハ最モ意ヲ用キテ危險ナキコトヲ目的トセサルヘカラス

四、釧路國仙鳳趾村 障子紙ノ破レタル圖

五、根室第二十國立銀行ノ金庫 木造家屋ノ外部ニ接シテ造リタル幅七尺程ノ小煉化構造ニシテ屋根ハ亞鉛板ヲ以テ張ル其龜裂シタル様ヲ示ス

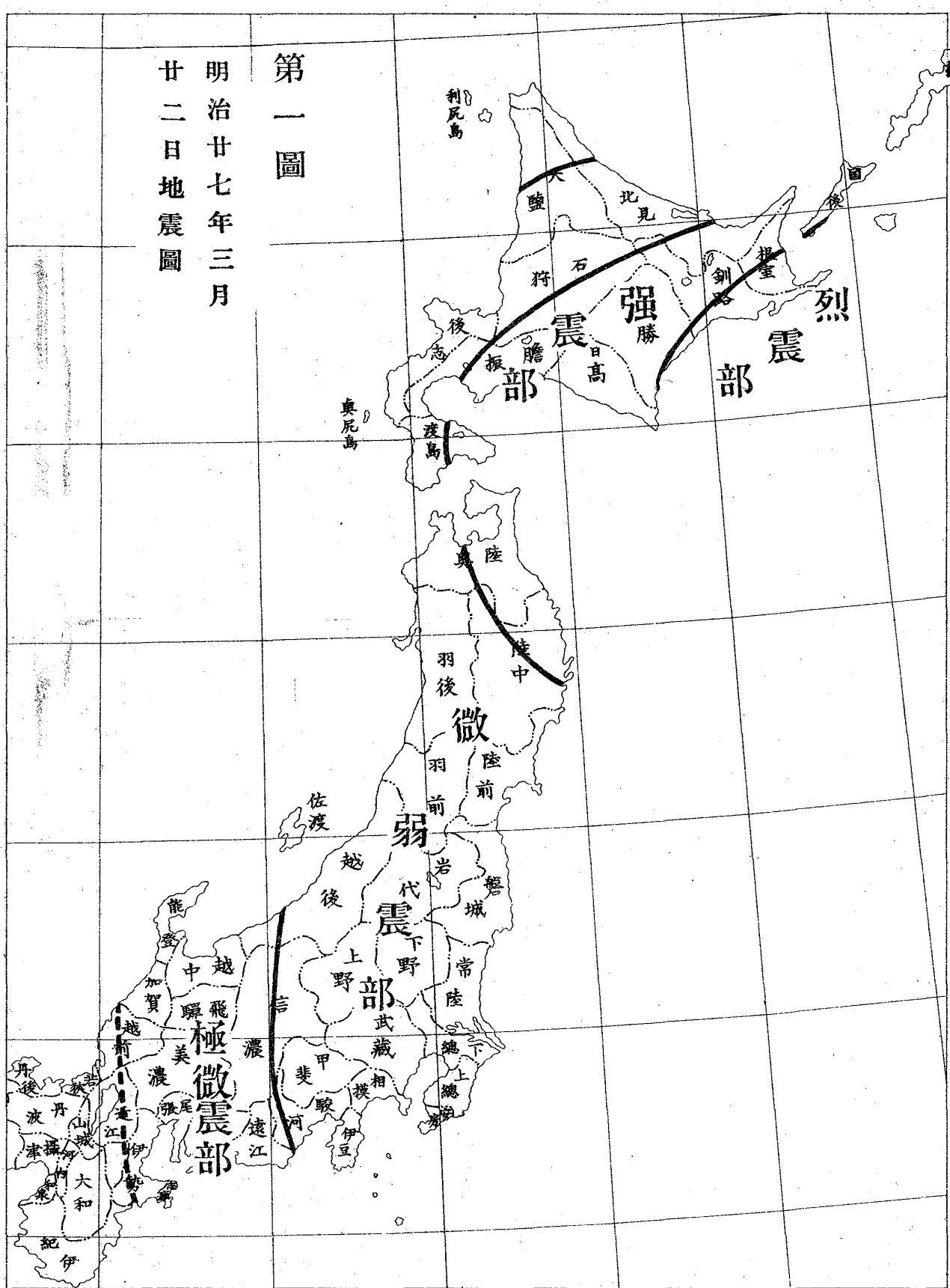
今回地震ノ被害大要左ノ如シ

北海道根室國根室

種別	員數	種別	員數	種別	員數
負傷者	四人	土藏破損	三六箇	煉瓦藏破損	四箇
建物破損	三九箇	石藏同	一箇	損害價額	三六四〇餘 <sup>円</sup>
釧路國厚岸					
種別	員數	種別	員數	種別	員數
負傷者	一人	建物全潰	一箇	建物半潰	七箇
釧路國釧路市街及近傍地					

種別	員數	種別	員數	種別	員數
負傷	一人	壓死	一人		
釧路國霧多市					
種別	員數	種別	員數	種別	員數
家屋倒潰	一	倉庫	二		

第一圖  
明治廿七年三月  
廿二日地震圖

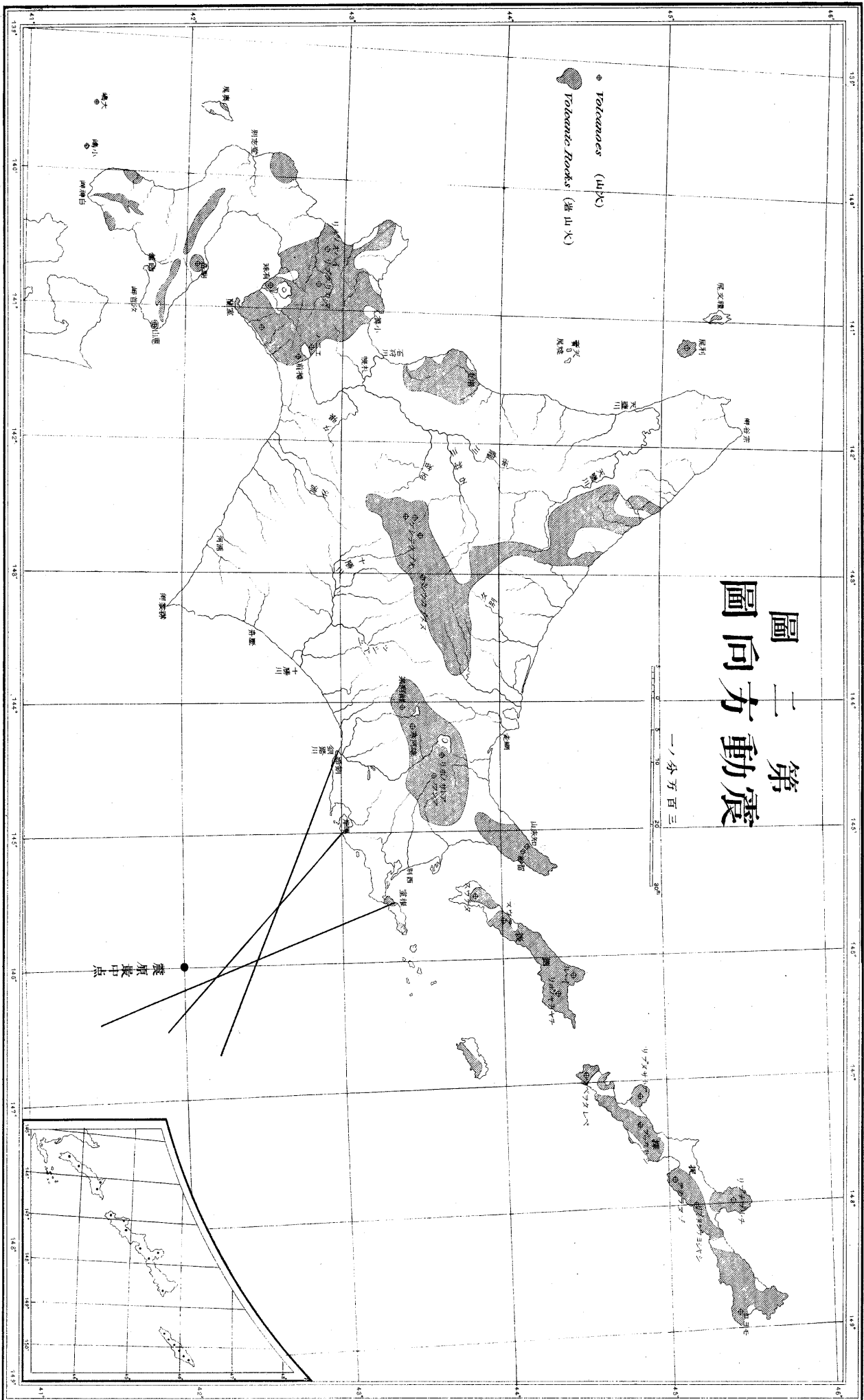


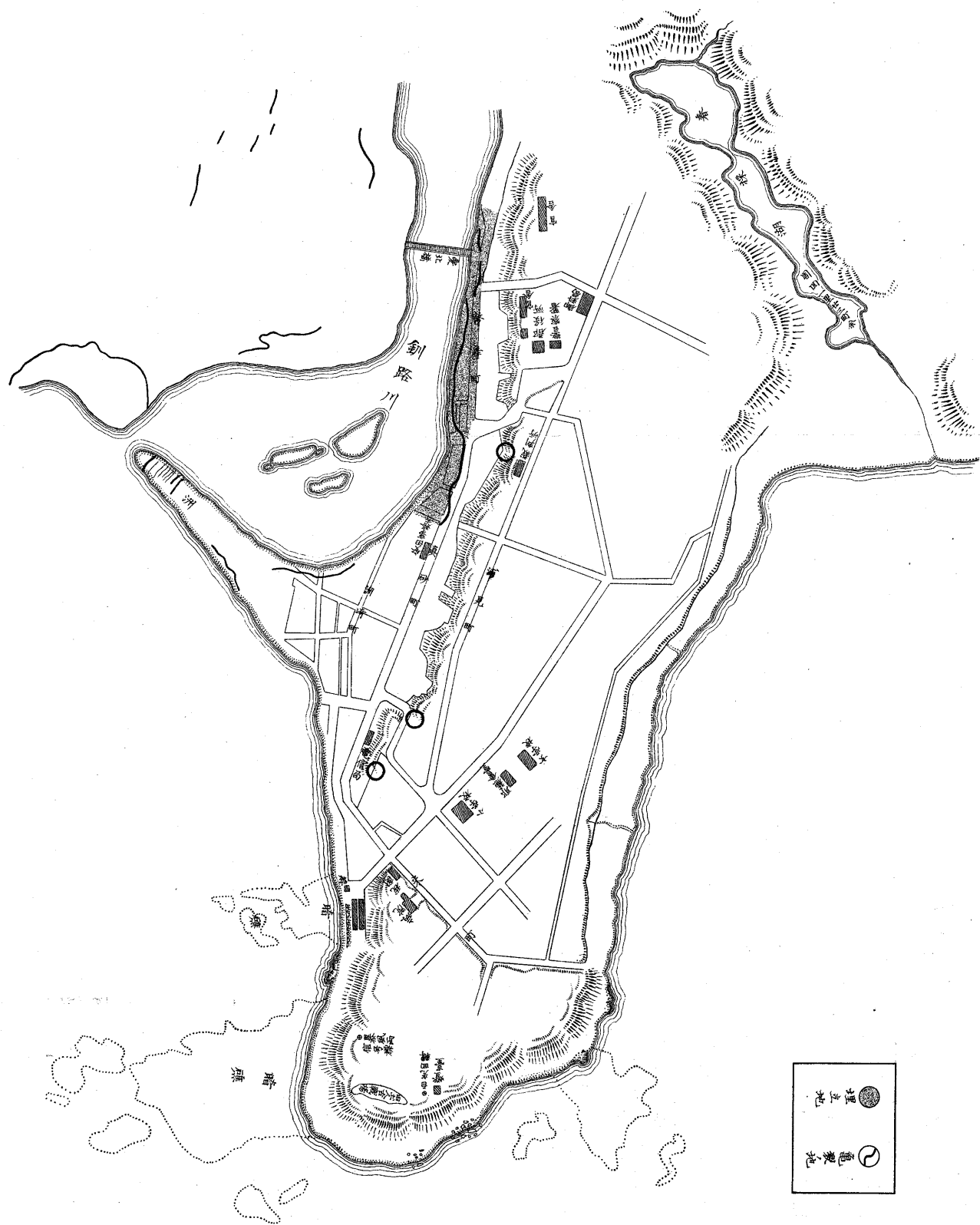
# 第二圖 震動方向圖

三百万分の一

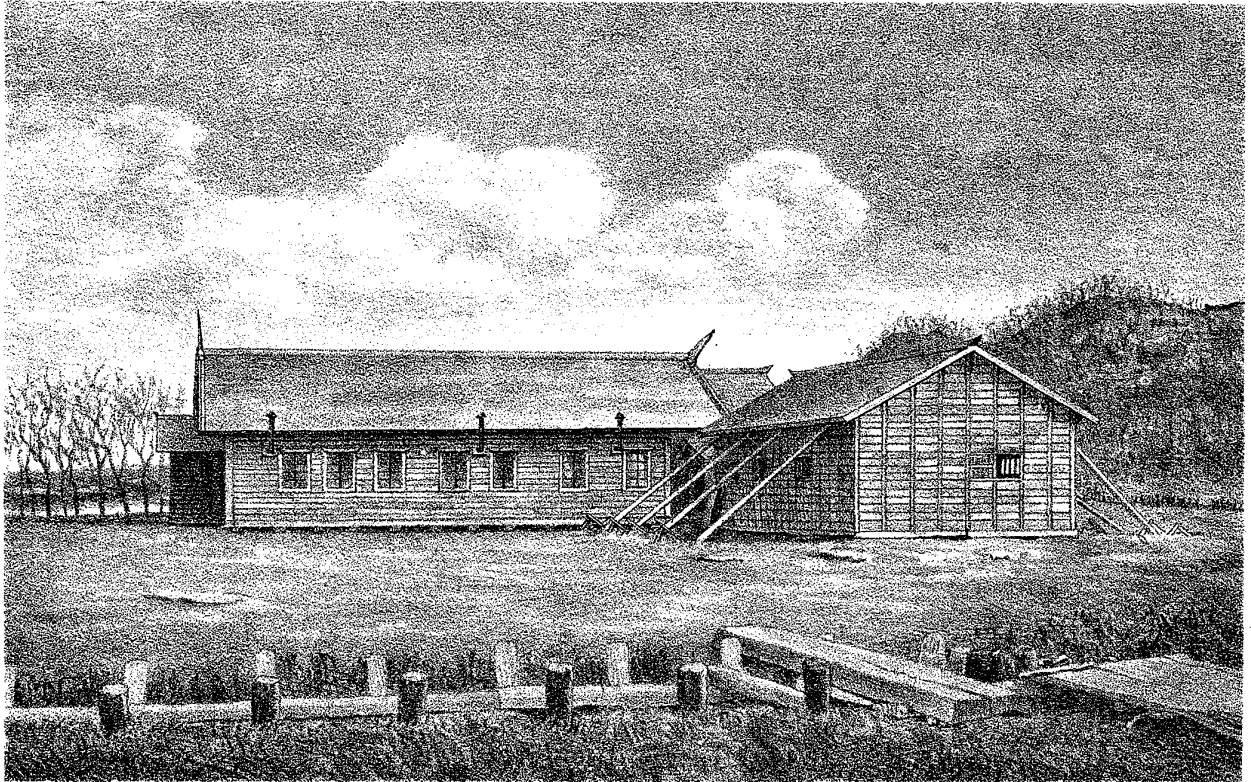
0 10 20 30

● Volcanoes (山火)  
● Volcanic Rocks (火山火)

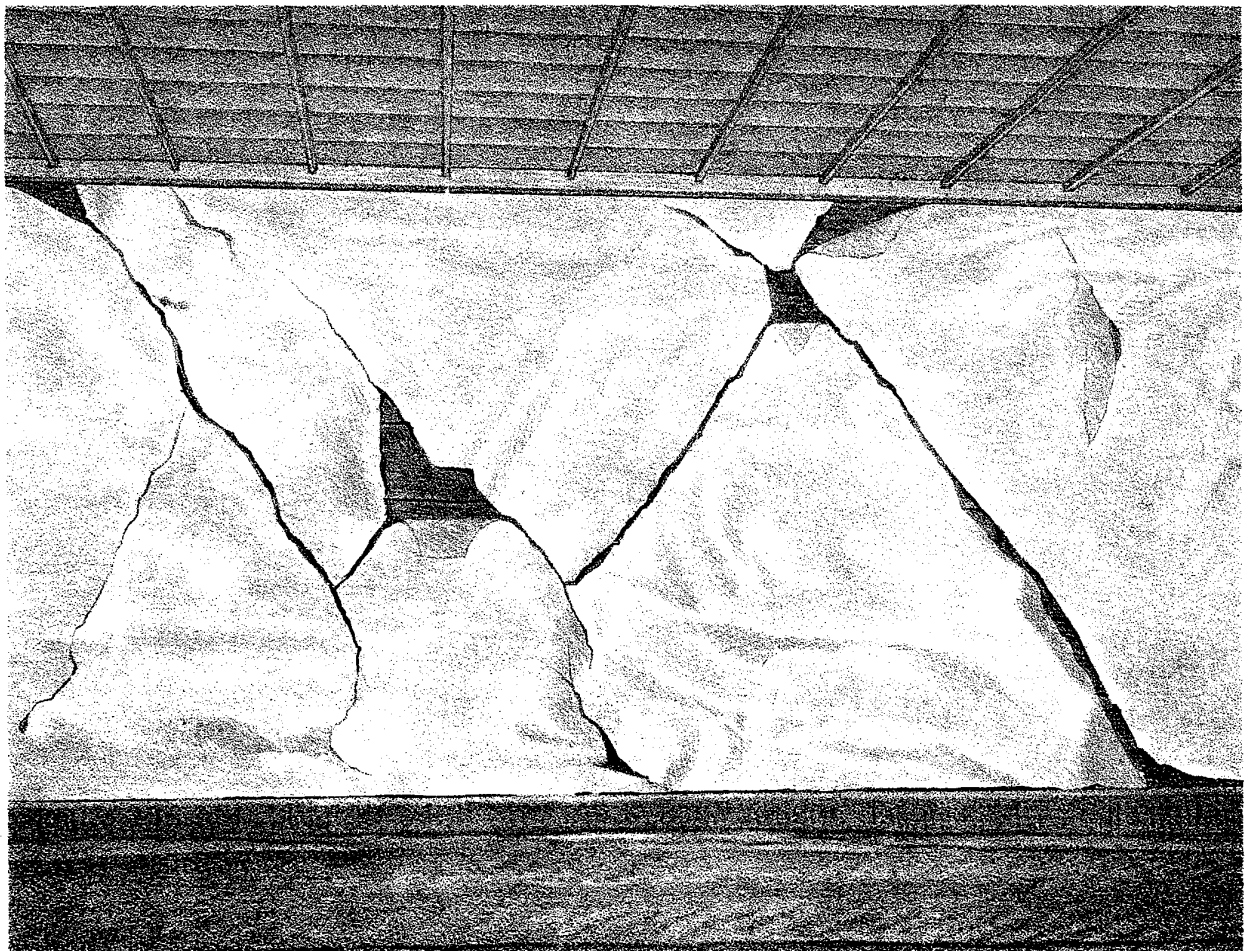




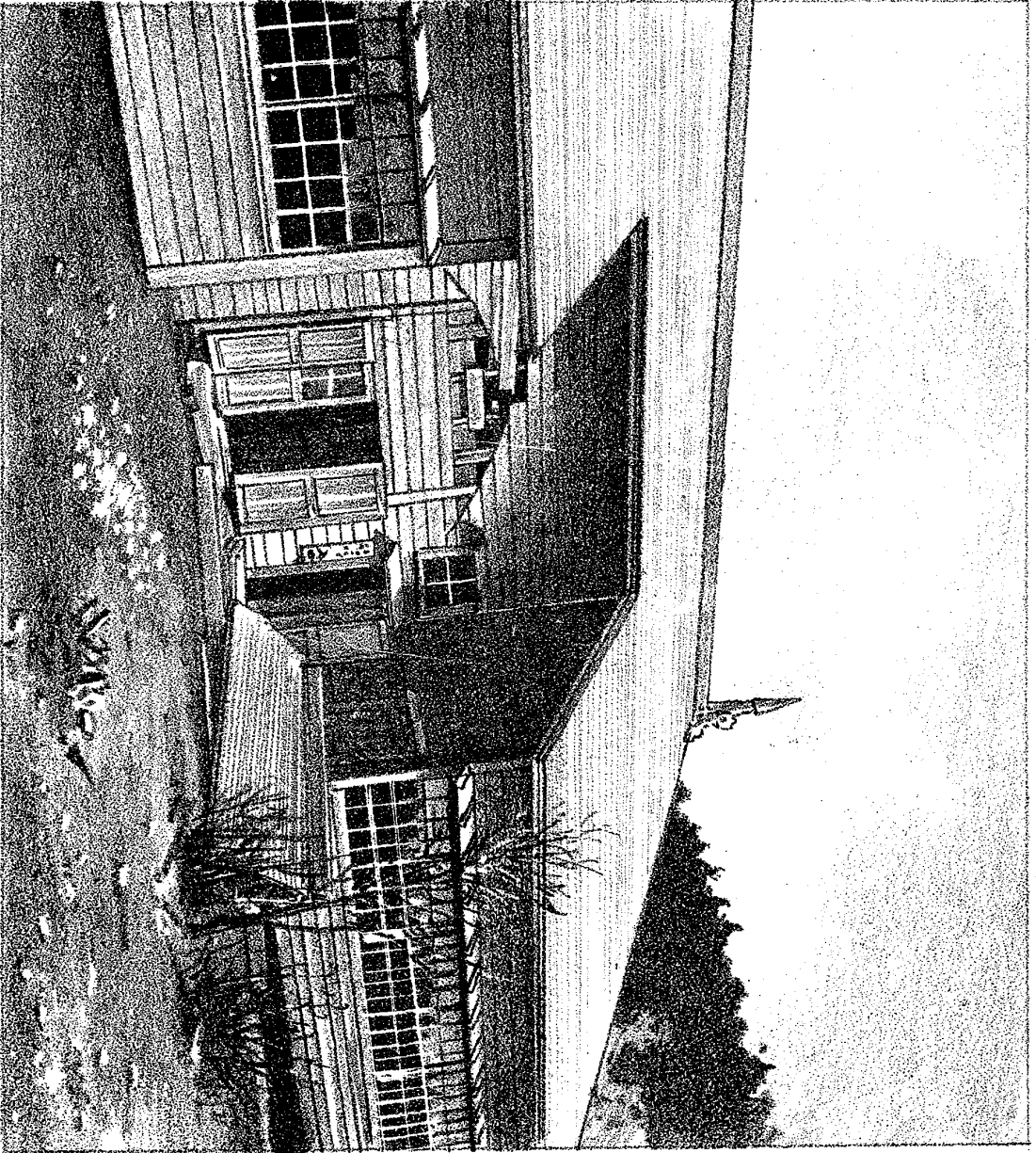
一 第



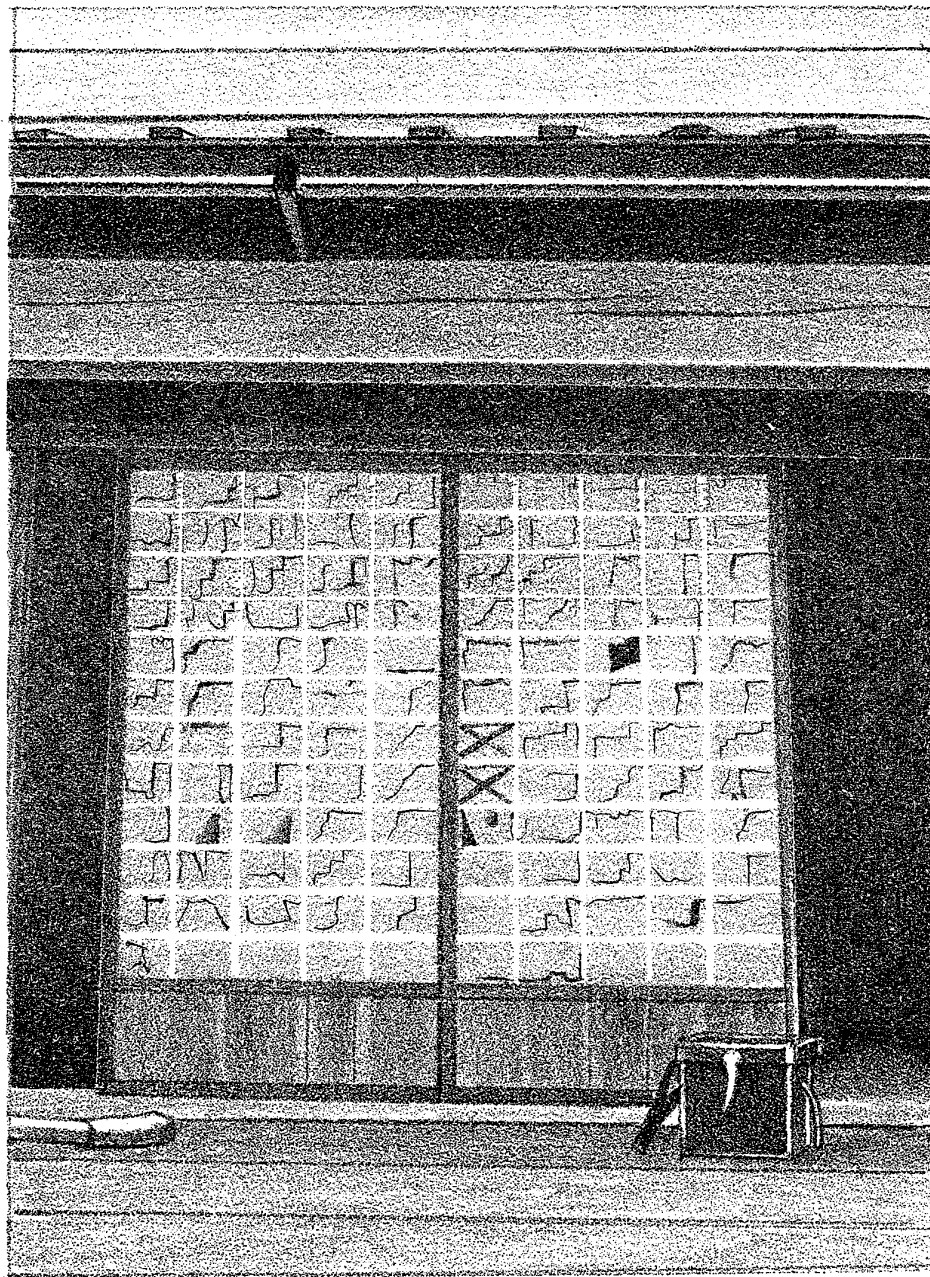
二 第



三第



# 四 第



# 五 第

